

〈施策1〉 青森を体験し、青森を知る教育の推進

子どもたちが豊かな自然や歴史・文化、県内にある様々な産業・職業や高度な技術など青森の魅力や可能性を学び、郷土に対する愛着と誇りを持ち、他の地域や文化の良さや違いを理解できる広い視野を育む教育に取り組みます。

【取組項目】

- ▶ 郷土の歴史・文化、県内にある様々な産業・職業や高度な技術などを学ぶ活動と、その普及に向けた取組の推進を図ります。…………… P 5
- ▶ 豊かな自然に触れる活動の推進を図ります。…………… P 6
- ▶ 郷土の資源を活用した高校生の主体的な活動を推進します。…………… P 7
- ▶ 国内外の他地域や異文化の良さや違いを理解できる広い視野を育成するための教育を推進します。…………… P 8
- 事業紹介…………… P 9
- 総括的評価…………… P11

【取組項目】

▶郷土の歴史・文化、県内にある様々な産業・職業や高度な技術などを学ぶ活動と、その普及に向けた取組の推進を図ります。

■ 取組項目の点検（平成22年度の具体的な取組状況～主な事業～）.....

(1) エネルギーに関する教育支援事業費補助（学校教育課）

概要	児童生徒がエネルギーに関する理解を深め、自ら判断する力を身に付けさせるため、地域や学校の特色、児童生徒の興味・関心に基づき、実験、調査、ものづくり、見学等の体験的な学習を推進する教育活動を行う市町村に対し、事業費を補助する。		
計画	・事業実施市町村数→6市町村	実績	・同左(黒石市、つがる市、十和田市、七戸町、野辺地町、六ヶ所村) 手回し発電機等整備に係る事業費を補助。

(2) こども民俗芸能大会（文化財保護課）

→事業紹介(P.9)

概要	子どもたちによる民俗芸能伝承活動の成果発表会を開催し、後継者の育成と郷土愛の醸成を図る。また、大人の優れた民俗芸能を鑑賞し、日頃演じている芸能の本来の意義や正確な伝承内容を学ぶ。		
計画	・出演→ 県内6地区から子どもの団体各1団体、大人の団体1団体 ・会場→ 五所川原市	実績	・10月10日(日)に五所川原市ふるさと交流圏民センター(オルテンシア)で開催。入場者数約500人。 ・三厩中学校太刀振保存会(東青地区)、飯詰若獅子会(西北地区)、柏木小・柏木町荒馬保存会(中南地区)、小川原神楽連中保存会(上北地区)、ぬいどう子ども会(下北地区)、石沢少年駒踊(三八地区)、嘉瀬の奴踊保存会(大人の団体)が出演した。 ・映像記録を作成し出演団体に配付した。

■ 取組項目の評価（点検結果を踏まえた評価）.....

＜成果＞

- ◆ エネルギーに関する教育支援事業費補助では、平成16年度から、文部科学省の補助事業を受け、各市町村の計画に基づいて行われるエネルギー教育に要する経費の補助を行っている。
平成22年度は、6市町村が実施する、エネルギー教育教材の購入、エネルギー教育関連施設の見学、教員を対象としたエネルギー・環境教育研修会などに要する経費について補助を行った。
参加した教員からは、「先進エネルギー実験キットに実際に触れて確かめさせることができ、児童生徒の理解が深まった」、「施設見学のあと、子どもたちのエネルギーに対する意識が高まり、省エネや環境について考えるようになった」などの感想があった。
- ◆ こども民俗芸能大会は、平成18年度に開始し、上北、東青、中南、下北、西北地区と開催地を変えて実施してきた。各団体にとっては、大会出演が練習に励む目標となり、公開演目の映像記録作成を行っていることから、民俗芸能の継承に資するものとなっている。また、来場者へのアンケートでは、子どもたちへの激励の声が多く寄せられている。

＜課題等＞

- ◆ 子どもたちが、エネルギーに関する正しい知識を身に付けられるよう、今後も購入した教材を有効に活用した授業実践を積み重ねていく必要がある。
- ◆ こども民俗芸能大会では、一般観客を増やすため、ポスター、チラシの配布方法を工夫し、さらなる周知を図るとともに、民俗芸能継承のために学校等での映像記録の活用を啓発していく。

【取組項目】

▶豊かな自然に触れる活動の推進を図ります。

■ 取組項目の点検（平成22年度の具体的な取組状況～主な事業～）

(1) 青い森水辺に学ぶプロジェクト事業(学校教育課)

概要	自然環境の保全に寄与する態度を育成するため、児童生徒による河川・湖沼の豊かな自然や歴史的な役割について調査・研究するとともに、その成果を普及啓発する。		
計画	・プロジェクト校 46校 小・中学校40校、高校6校	実績	・プロジェクト校 45校 小学校35校、中学校4校、高校6校

(2) 青少年教育施設主催事業（生涯学習課）

概要	青少年教育施設における「自然と遊ぼう」などの実践的・体験的な活動をとおして、青少年の自主性、社会性を涵養し、自己の形成を図る。		
計画	[自然体験活動実施回数] 80回 [募集人員] ・親子のつどい→ 370人 ・子どものつどい→ 140人 ・自然体験活動支援事業(出前講座) ・自然と遊ぼう→ 710人 ・子どもの祭典→ 70人	実績	[自然体験活動実施回数] 114回 [自然体験活動参加者数] 7,152人 ・親子のつどい→ 446人 ・子どものつどい→ 110人 ・自然体験活動支援事業→ 5,716人 ・自然と遊ぼう→ 826人 ・子どもの祭典→ 54人

■ 取組項目の評価（点検結果を踏まえた評価）

<成果>

◆ 青い森水辺に学ぶプロジェクト事業では、平成22年度・23年度の2か年事業として、本県の豊かな自然を活用した多様な自然体験活動や、児童生徒による河川・湖沼の自然や歴史的な役割についての調査研究活動に取り組んでいる。

平成22年度は、小・中・高等学校45校がプロジェクト校として事業に参加し、1,020人の児童生徒が調査研究活動を行った。中間報告会では、各校種からの代表校7校による中間報告のほか、全ての参加校による情報交換を行うとともに、本県出身の理学博士による講演を行い、児童生徒の環境保全に関する理解が深まった。中間報告会に関するアンケートでは、83.3%が「大変勉強になった」、15.2%が「まあまあ勉強になった」と回答しており、中間報告会での発表や講演により環境に対する意識を高めることができた。

◆ 青少年教育施設主催事業では、少年自然の家及びその周辺の豊かな自然環境の中での、自然観察、自然物を材料にした創作活動等の実施や、少年自然の家職員が学校等の団体が希望する現地に出向き、自然体験活動のプログラムの紹介や実地指導、助言の実施などにより、子どもたちが自然に触れる活動機会を提供できた。参加者からは、「子どもが楽しんでいる姿を見てよかった」、「りすやうさぎの足跡を発見し感動した」という感想があった。

<課題等>

◆ 平成23年度は、自然環境保全に寄与する態度の育成を図るため、引き続き、身近な自然環境について調査研究活動を行うとともに、その価値を再発見することで、自然環境を大切に思う気持ちと愛着を持たせ、今後、自分たちが青森県の豊かな自然を守るために何をしなければならないか、自分たちにできることは何かを考える契機として「青い森水辺を守る環境サミット」を開催する。

◆ 子どもたちが学校や身近な野外活動場所などで自然に触れる活動を一層充実させるため、青少年教育施設において、自然体験活動に関する新たなプログラムの開発とともに、学校や子ども会等と連携した取組を進める必要がある。

【取組項目】

▶郷土の資源を活用した高校生の主体的な活動を推進します。

■ 取組項目の点検（平成22年度の具体的な取組状況～主な事業～）

(1) ドリカム人づくり推進事業（学校教育課）

概要	高校生の向上心や積極的に学ぶ意欲を育むため、語学力向上活動や地域交流活動など、生徒が主体となり企画・活動を行う特色ある学校づくり事業を実施する。		
計画	・指定校→ 14校	実績	・指定校→ 青森南高校など16校

(2) 高校生地域貢献推進事業（学校教育課） →事業紹介(P.10)

概要	郷土に愛着と誇りを持ち、本県に貢献する人材を育成するため、高校生による地域の産業等に係る調査・研究を実施する。		
計画	・指定校→ 7校	実績	・指定校→ 7校(弘前実業高校、金木高校、八戸南高校、八戸水産高校、八戸商業高校、青森工業高校、三沢商業高校)

《具体例》

八戸南高校	地元鮫町の観光資源の調査・研究、文献研究及び観光客への蕪島ボランティアガイド活動等とおして、観光資源の観光客への紹介やPRによる地域貢献に取り組んだ。
青森工業高校	地元浅虫温泉の観光資源の調査・研究、PR用木札の作成と配布、地元食材を使った商品開発と提案等とおして、浅虫温泉の活性化と観光客への紹介による地域貢献に取り組んだ。

■ 取組項目の評価（点検結果を踏まえた評価）

＜成果＞

- ◆ ドリカム人づくり推進事業では、平成20年度から、児童生徒の夢の実現のために、児童生徒のアイデアを取り入れ、向上心や積極的に学ぶ意欲など、チャレンジする心を育む事業を企画・展開する県立学校を推進校に指定し事業を実施している。

指定校では、児童生徒一人一人の豊かな人間性や確かな学力を育成するため、生徒の積極的な体験活動を促進し、各学校がそれぞれの特色を生かした独自の取組を行うことにより、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりが推進された。

- ◆ 高校生地域貢献推進事業では、平成21年度・22年度の2か年事業として、高校生が地域と連携し、本県の産業等に関する調査・研究を通して、郷土に関する理解を深化させるとともに、地域に貢献できる具体的な活動を検討・実施することにより、郷土に対する誇りを持ち、地域の課題を追究する力と解決する力を育成するための取組を行った。

平成22年度は、推進校7校が引き続き、調査・研究に取り組むとともに、県内の高校生、教員及び教育関係者の参加による「高校生地域貢献サミット」において、2年間にわたる調査・研究及び実践活動の成果を発表し、高校生による地域貢献の普及啓発に大きな効果を上げた。

＜課題等＞

- ◆ 高校生の主体的な活動や特色ある学校づくりを一層推進するため、引き続き、各県立学校にドリカム人づくり推進事業の積極的な活用を呼びかけていく必要がある。
- ◆ 各高校における学科の特色を生かした取組や郷土の資源を活用した高校生の主体的な活動状況を様々な機会をとらえて、他の学校に周知し、普及を図っていく必要がある。

【取組項目】

▶ 国内外の他地域や異文化の良さや違いを理解できる広い視野を育成するための教育を推進します。

■ 取組項目の点検（平成22年度の具体的な取組状況～主な事業～）-----

(1) 語学指導を行う外国青年招致事業（学校教育課）

概要	生徒の英語力の向上を図るとともに、併せて英語担当教員の指導力の向上を図るため、語学指導を行う外国青年を招致する。		
計画	・配置人員→34人	実績	・同左

■ 取組項目の評価（点検結果を踏まえた評価）-----

<成果>

- ◆ 語学指導を行う外国青年招致事業では、昭和62年度から、児童生徒の他地域や異文化を理解する広い視野を養うため、海外との交流事業等の国際理解教育を行うとともに、中学校や高等学校での英語の指導、教材の作成など、本県における英語教育の充実のため、語学指導等を行う外国青年を招致した結果、地域レベルでの国際化が進むとともに、教員の指導力と生徒の語学学習への意欲向上につながっている。

<課題等>

- ◆ 新しい小学校学習指導要領に外国語活動が位置付けられたことを踏まえ、引き続き、改訂の趣旨や内容を周知徹底することにより、新学習指導要領の円滑な実施につなげていくとともに、担当教員の指導力を向上させるため、国際理解教育及び外国語(英語)教育に係る各研修について、受講者の拡大と研修内容の充実を図る必要がある。
- ◆ 平成25年度から学年進行により適用される新しい高等学校学習指導要領では、「授業は英語で行うことを基本とする」ことから、ネイティブ・スピーカーの活用など、教員の指導体制の充実を図るとともに、外国青年の効果的な活用が必要である。



事業紹介① こども民俗芸能大会(文化財保護課)

こども民俗芸能大会

【目的】 先人から受け継いだ貴重な文化遺産である民俗芸能の保存・継承を図るため、学校や地域における活動成果の発表会及び交流会を開催し、後継者の育成や郷土愛の醸成を推進するとともに、こどもの健全育成に努める。

【事業概要】

- ① 開催日時 平成22年10月10日 日曜日 12:30~16:00
- ② 開催場所 五所川原市ふるさと交流圏民センター（オルテンシア）
- ③ 出演団体
[子どもの団体] … 県内6地区から1団体、計6団体
(地区の教育事務所から推薦された団体出演を依頼しています。)
[大人の団体] … 1団体
(開催地の代表的な民俗芸能団体出演を依頼しています。)
- ④ 来場者数 500人程度

【成果・課題等】

平成18年度から開始し、三沢市、青森市、弘前市、むつ市、五所川原市と開催地を替えて実施してきました。平成23年度は、八戸市で開催する予定です。

来場者へのアンケートでは、民俗芸能を一生懸命に演じる子どもたちに対し、感動と激励の声が多く寄せられています。今後も、民俗芸能が確実に継承され、子どもたちによる実演を含む、民俗芸能の公開の機会が確保されるように検討していきます。

《平成22年度の出演団体》

○子どもの団体

三厩中学校太刀振保存会（外ヶ浜町） 飯詰若獅子会（五所川原市）
柏木小学校・柏木町荒馬保存会（平川市） 小川原神楽連中保存会（東北町）
ぬいどう子ども会（佐井村） 石沢小学校（五戸町）

○大人の団体

嘉瀬奴踊り保存会（五所川原市）



飯詰若獅子会：飯詰獅子舞



小川原神楽連中保存会：小川原神楽（三番叟）

高校生地域貢献推進事業

《目的》

高校生が地域と連携しながら、本県の産業等について調査・研究を行い、郷土に関する理解を深め、地域に貢献できる具体的活動を考え、体験することによって、問題を追究する力と解決する力の育成を図るとともに、企画力や創造性を養うことを目指すものである。

《事業内容》

(1) 推進校

八戸南高校『鮫・蕪島ボランティアガイドをととした地域貢献』

金木高校『北津軽の観光を考える ～人と人とのふれあい～』

青森工業高校『Aomori City revival plan in Asamushi～浅虫温泉再生計画～』

八戸水産高校『「八戸の水産業」未来構想を探る』

弘前実業高校『土手町商店街活性化～好きです！弘前プロジェクト～』

八戸商業高校『英語を活用した八戸地域の伝統行事や民芸品の伝承活動』

三沢商業高校『地域ビジネスプランの創造』

(1) 活動内容

・平成21年度

7推進校による地域の産業等に関する調査・研究

活動内容：指導者研修会、地域別研修、現地調査・研究活動

・平成22年度

活動内容：実践活動、地域別研修会、各地域での発表

高校生地域貢献サミット(平成23年2月7日 青森市)



金木高校 太宰ミュージアムボランティアガイド



八戸水産高校 サケ頭の缶詰試食配布



八戸南高校 蕪島ガイド



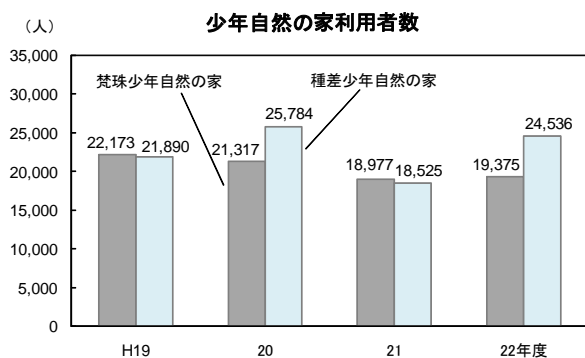
高校生地域貢献サミット

○総括的評価

青森を体験し、青森を知る教育の推進

- 本県の歴史・文化等を学ぶ機会の子どもたちへの提供や、エネルギー関連施設の見学等による充実したエネルギー教育が行われているが、今後も子どもたちが本県の歴史・文化等を学ぶ機会を提供するほか、エネルギーについての理解を深め、自ら考え判断する力を身に付けるためのエネルギーに関する教育の充実を図る必要がある。
- 子どもたちが、本県の豊かな自然に愛着を持つとともに、環境保全に寄与する意識と態度を身に付けることが求められており、本県の豊かな自然を活用した多様な自然体験活動や自然環境の保全に関する活動などに引き続き取り組む必要がある。
- 各高校における校種や学科の特色を生かした地域貢献の取組の成果を他の学校へ普及することが課題となっており、様々な機会をとらえ各高校へ普及・啓発を図り、高校生 の地域における主体的な活動を一層推進する必要がある。
- 生涯を通じて多様な国際文化に数多く接し、国際交流を行う県民が増えることで、国際的視野を持った人財が育成されるため、JETプログラムによる外国青年を引き続き招致していくとともに、招致していない町村での当事業の導入を推進する必要がある。

<参考データ>



語学指導等を行う外国青年招致事業で招致した外国青年数

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
121名	115名	117名	121名

資料: 国際経済課